

白山ふるさと文学賞

第十二回 白山市ジュニア文芸賞 受賞作品

【暁烏敏部門】〈作文「母へのおもい」または「家族へのおもい」〉

中高校生の部 優秀賞

「家族への思い」

笠間中学校一年

池下^{いけした}

怜^{れい}

お盆に母方の実家に行った時、「小学生の時は大変だったけど、中学生になってちよっと成長したんじゃない？」と言ってもらいました。でもそれは母たち家族のおかげだと思えます。

私は小学二年生くらいの頃から三年生の終わり頃くらいまでの時、なかなか学校に行きませんでした。学校は好きで行きたいのに足が向かない日が多かったです。朝起きたときは学校に行こうと思ひ、準備するけどいざ行こうとすると行きたくなくなり、言葉ではうまく表せないけど、出発しても途中で引き返したり、友達をむかえに行かなく、友達とうまくいかなかったりでもなく、理由もなく気持ちが落ち着かずにもやもやとして行きたくなくなっていました。と言うより、母と離れるのがなんとなく嫌で、不安でならなかったのだと思います。なので時には母と一緒に学校までついて来てくれたりしました。学校までついて来てくれても、玄関でいざ離れるとなると離れられなくなつて学校に入れずその場に立ちすくんでしまい、動けなくなつてしまうことも多かったです。なので、玄関まで担任の先生にむかえに来てもらつてなれば強引に教室まで連れて行ってもらつたりしました。それでも泣いて離れられない、自分で教室に行けない時は、母と先生方が話し合い、母に教室までついて来てもらひ、母と一緒に授業を受けたりしていました。母について来てもらつていられるのがよくないとわかつていても、自分の学校に行きたくない気持ちのほうが強くてどうしようもありませんでした。今思うと、本当に大変だったなと思います、その時の私は、自分の気持ちも自分で分からず、うまく言葉にも表すこともできなくて、どうしたらいいかわかりませんでした。家では、夜眠れなかったり、起きているときにくらくらめまいがしたり、眠れてもすぐに目が覚めてしまつたりしました。でも母が夜中に一緒に外に出て夜空を見て過ごしてくれました。そのほかにも、私は、自分の思いと違ふことがあると母に当たつたり、母の

せいにしてたりしていました。こんな色んな出来事がありました。母に怒られたり、ケンカしたり、お互いに泣いて過ごしたのを覚えています。私が母の立場だったらこんな私を相手にできないと思います。しかし母は、私のことを見捨てずに一緒にいて話を聞いてくれたり、私の気持ちが落ち着くのを待ってくれました。

最近ニュースでぎゃくたいや、母親が子供を殺してしまうニュースを見ました。ぎゃくたいの原因を調べると、家族間のストレスや経済的な問題、子育ての中で感じる不安や寂しさなどがあるそうです。私の母も毎日の家事や、仕事、焼肉屋のお手伝い、私や弟達の習い事の送りむかえに加えて、私のこの問題で母は相当疲れやストレスがたまっていたに違いありません。もちろん母だけではなく、父やおじいちゃんや、おばあちゃん、そして、母が私に付きつ切りになっていることによつて二人の弟たちにもさみしい思いやがまんをさせたと思います。しかし、母や家族がこのようなことにならなかつたのは、母のやさしさと父など家族の支えがあったからだと思います。父やおばあちゃん、おじいちゃんはお店がある中でも、弟の面倒を見てくれました。母が私のことをしている間は、父など家族が家のことをやってくれていた、時には母方のおじいちゃん、おばあちゃんも様子を見に来てくれたりしていたので、母は私の問題に付き合うことができていたんだと思います。そうやって家族のみんなが私を支えてくれたおかげで今の私があるんだと思います。

中学生になつてからは、小学生の時より減りましたがまだたまに学校に行きたくなくなつたり何もできなくなつたりしてしまひますが、今でも家族が変わらず支え続けてくれていること、友達が助けてくれるので私もその気持ちにこたえたいなと思つています。これからこのようなことがあつて家族に迷惑をかけることがあると思ひますが、かけるだけでなく家族が大変な時は、私が支えてもらつたように家族を支えられるようにしていきたいです。